

会議の概要

| | |
|------|-------------------------------------|
| 会議名 | 令和2年度 堺市生涯学習支援計画懇話会 |
| 開催日時 | 令和2年10月14日(水曜) 午後2時から3時30分 |
| 開催場所 | 堺市役所 本館3階 第2会議室 |
| 出席委員 | 河村委員、草野委員、杉本委員、西田委員、山口委員、山本委員【五十音順】 |
| 傍聴者数 | 0人 |

案件及び意見概要

(1) 座長・副座長の選出

座長：杉本厚夫 関西大学名誉教授

副座長：西田正宏 大阪府立大学 副学長

(2) 懇話会の概要について (事務局説明：資料2)

(3) 計画策定のスケジュール (事務局説明：資料3)

(4) 堺市生涯学習支援計画の振り返りについて (事務局説明：資料4)

【西田副座長】

総括目標値の達成度について、計画策定時よりも数値が低下している一方で、別の参考指標では上昇も確認されている。次期策定の際は、目標と達成を単なる数値で置くのではなく、違う形で考えることも必要では。

【杉本座長】

評価については、量的な変化が議会対応等で必要なのだと思うが、質で考えていくという方向性が必要だと思う。目標に達した達しなかったということではなく、そこからどうすべきか、いわゆるPDCAサイクルを回していくことが必要であり、課題が解決に向かうような評価の仕方を前提に考えていかなければならない。結果に一喜一憂しないで、どうしたら解決できるかというのをやっていかなければならない。

【河村委員】

地域活動やボランティア、NPO活動に関することと答えられた方が20何%ということだが、実際は一人の方が複数の活動をされているということを強く感じている。アンケートの数値では単純に測れない。特定の人が一生懸命活動するけれども、やらない人はあまりやらない。

活動していて感じるのは、特に年配の男性は社会的に距離を置いて孤立してしまいがち。その辺を含めていかに裾野を広げるかという取り組み、参加しやすい形を構築していくかということが課題ではないか。

【山口委員】

主な取り組みにある「学びの応援プログラム」について、当社もCSR(社会貢献)活動の一環として子どもたちに新しい学びの場を提供している。基本的には利益を求めない活動ではあるものの一定のコストがかかっており、最終的にはそれが企業貢献にもつながらなければならぬ。ボランティア=無償だけを求めてしまうと、どうしても継

続性につながっていかないことは CSR 活動を進めるにあたり身をもって実感している。

産官学民が本当に一体となって、win-win の関係になれるようなものを考えていかないと、必ずどこかで活動が止まってしまうのではと感じている。

【杉本座長】

山口委員がおっしゃられたとおり、win-win でないと継続していけない。経済的なものだけではなくて、色々な win があると思う。生涯学習は「継続」というのが一つのキーワードになっている。

【草野委員】

子育て世代からすると、生涯学習は縁遠いなと思ってしまう。

現計画の総括目標値に掲げられている3つの調査項目の中でも、図書館は子どもと一緒によく利用するが、それが「生涯学習」「文化活動」となると、どうしても仕事を引退した方がするカルチャークラブのイメージがあり、とっつきにくい印象。また地域の活動をしないといけないと思いつつも、なかなか一步を踏み出せないところがある。

調査項目の結果は、年代によって違いが大きいのではないか。おそらく20代30代はかなり低いと思う。低い数値の年代への働きかけが必要ではないか。

【杉本座長】

現行計画のめざすべき姿にある「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」のうち、「いつでも、どこでも」は今回のコロナで随分変化した。しかし「だれでも」は変わらず積年の課題である。生涯学習は高齢者のものだというイメージがなかなか払拭できていない。

【山本委員】

今までは子育てのために仕事から離れている方が当組合で活動し、健康・食・家計の節約、環境問題などについても色々取り組んでこられたが、最近では女性の社会進出が進み、活動の主体が高齢化している。子育て世代や若い方に、学習に参加してもらえるのが課題。

このコロナ禍で働き方が変わったことで、働く世代がオンラインでの集まりに参加しやすくなった。反面、高齢の方にとってはオンラインにそもそも参加していけない、ITについていけない。オンラインに関しての何らかの支援をしないと、今後の学習も難しくなっていくのではと感じている。どの世代がどんな講座に参加されているか、年代別の調査結果があればよいのではないか。

【杉本座長】

宅配サービスや通信サービス等、うちにいながらできることが増えたことはチャンスとして生かす必要がある。

その一方で、会うことによる情報量はネットを通じて行うものとは比較にならない。ネット会議とは異なり皆さんの反応や表情、雰囲気などを感じ取ることができる。メリットとデメリットをしっかりと押さえながら計画を立てていかなければならない。

(5) (仮称) 次期堺市生涯学習支援計画策定にあたって (事務局説明：資料5)

【山口委員】

SDGs (エスディーゼズ) がどういう風に生涯学習に関連するのか具体的なイメージがわからない。現実としてSDGsで何?という人が、まだまだ大半だと思う。

計画策定にあたって、SDGsが一体どういうものなのかを学習として広めていくことに重きを置くのか、もしくは堺市の課題と関連づけて重点的に学びにつなげていくことを取組んでいくのか。

【杉本座長】

SDGsは、企業でも自治体でも大学でも取り組んでいる。世界的なゴールというのがあり、それを生涯学習とどうリンクさせていくかというのが課題である。サステナブル(持続性)というのが大事。

ある環境学者は、サステナブルの「S」ではなく、サバイバルの「S」だと。これだけパンデミック(感染爆発)や自然災害が起こり、私たちは生き残れるかについて考えさせられている。私たちは今までディベロップメント(開発)することによって自然界を破壊しており、成長という概念を我々はどう解釈していくかということが必要。

【西田副座長】

生涯学習計画の改定にあたり、今年度中に策定される堺市次期基本計画との整合性を意識しすぎると難しいのではないかと。

またコロナによって顕在化したことがある一方で、将来的には収束していくことも考慮しなければならない。コロナ収束後もリモート学習を推進していくのか、一時のことであるのかなど。コロナは一つの大事なきっかけではあるがそれを全面に出すのではなく広い視野で考えていく必要がある。

またリカレント教育に関しては、大学でも履修証明プログラム等を実施しており、今後大学と協力し合いながら進めていきたい。

【杉本座長】

コロナ対応というよりもコロナをきっかけに行動変容すべき。生涯学習自体を変えていきたい。

上位計画に追従するのではなく、生涯学習からボトムアップで提案していく形が望ましいのでは。

【山本委員】

コロナで生活様式が変化したことで想定より早く10年後の未来がやってきた。今後の暮らしが変わることで何を学習すべきなのかという視点が問われている。買い物でもインターネットがないと生活しにくくなっている。キャッシュレスも決済の種類が多数ある。詐欺も怖い。高齢者の不安の声に対して何かしらの支援が必要だと感じる。その支援は企業か組織なのか、政府がするのか、それともご近所の助け合いなのか。どの点を生涯学習としてとらえていくのかも計画に組み込んで考えるべきではないかと。

【河村委員】

次期計画のスケジュールについて、5年先10年先の未来を見通して計画を立てることは大変良いと思う。

今後市民意識調査もされるとのことだが、市民が求めることを取り入れてもらいたい。できないこと難しいこともあるかもしれないが計画に反映していただきたい。

(6) 堺市生涯学習に関する市民意識調査(案)について (事務局説明:資料6)

【草野委員】

(問23「今後、オンライン学習をしてみたいか」の選択項目に対して)なぜオンラインよりも集まって学習をしたいのか、なぜ興味がないのかの理由を問わなければいけないのでは。

ママ向けの勉強会を毎月開催しているが、小さい子どもがいると外出しづらい状況でも、オンラインだと参加しやすいというメリットがでてきた。コロナが収まっても、今まで参加できなかった方が参加できるより良い仕組みとして永久的に続いていくと思う。どうすれば多くの人がオンライン参加できるのかについて考えなければいけないと感じる。

【杉本座長】

事前に事務局からいただいた調査案に対して、先に修正案をお伝えしているので簡単に説明する。

問23はオンラインを「したい」、「したくない」の2つに分けて、してみたい場合「なぜしたい」のか、したくない場合「なぜしたくない」のかの理由についてさらに聞いていくほうがよい。それに伴って、問22は外出自粛でインターネットを利用した学習を「した」か「していない」だけを尋ねるほうが整理できるのではないかと。年代別のニーズについても分析しやすくなると思う。

問24の項目及びその他については、各委員からメールにて意見を聴取する。

(終了)